

子曰く、
君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「立派なリーダーは、それぞれ異なった個性を尊重して、全体を調和させ、素晴らしさを最大限に発揮させる。まちがってもそれぞれの個性を否定して、皆が単一単調で、まったく同じになるように強制することはない。

くだらない小人というべきリーダーは、それぞれの違いを認めず自分にとって都合のよい画一的なメンバーになることを要求する。異なった個性たちを調和させようという努力はない。」

音楽で考えるとわかりやすいです。楽団のメンバー全員が、例えばリコーダーという同じ一つの楽器だけをもって同じ音階で演奏するのと、それぞれ違った楽器をもったオーケストラの演奏と、どちらが素晴らしいでしょうか。言ってみてもありませんね。もちろん全員が勝手気ままに音を吹き鳴らしては、それは単にやかましいだけの騒音になってしまいます。大事なのは、それぞれの楽器の音色や音域といった個性を生かしつつも、美しいハーモニーになるように役割分担もし、調和した演奏になるように導くことです。そうすれば演奏している本人たちも恍惚するような、素晴らしい音楽となるのです。特にモーツァルトやベートーベンが得意とする「カデンツァ」では、それぞれの楽器が勝手気ままに即興演奏しているように見えて、実は高度に調和されたハーモニーを創造しています。日本の古典音楽である雅楽は、そのほぼすべてが「カデンツァ」といっても過言ではありません。学校でこれから新年度を迎えると、部活その他の場面でみなさんもリーダー的な役割を担うことが多くなるでしょう。そのときも苦勞してでも「和して同ぜず」を意識してみてください。うまへんかむかむかとは別として、きつとあなだが大きく成長する機会とはなるようにしてほしい。